

ともやま つよし
巴山 剛さん
(大阪からのIターン)

大阪で生まれ育った巴山さんは、芸術活動などを通して、自らの立ち位置を探してきました。2016年に対馬を訪れた際、日本と朝鮮半島の間にかぶ対馬に、自分自身を重ねて興味を持ち、2019年3月、対馬に移住しました。現在、自らを表現するために培った音楽を手に、対馬と朝鮮半島だけでなく、日本や世界とつなげる取り組みを行っています。

対馬生活2年目を迎えた今、巴山さんは上県町佐須奈で仲間と共に暮らし始めました。元パチンコ店だった場所を改装しながら、これからの生活のイメージを描いています。

この場所がどんな風に完成するか、日々のお会いの中で変化し続けています。

対馬ぐらしのススメ

～移住2年目、ともやま つよし巴山 剛さんに聞きました～



福岡で外国人観光客に日本文化を紹介

Q. 移住のきっかけは？

自らのルーツが朝鮮半島にあると意識し始めた大学生の頃、日本で生まれ育った自分が、その思いを表現できる何かを探していました。その中で、和楽器を使って朝鮮半島の音楽を演奏してみたいと思っていたところ、三味線と出会ったんです。これまで、三味線演奏家として、各地で演奏活動や外国人観光客への日本文化の紹介などを行ってきました。ほかにも、アリランとよさこいを融合させた団体に踊ったりしたことで、芸術で自分の思いを表現できることに自信を深めました。

対馬には2016年に初めて訪れたのですが、それも表現活動を通じて生まれたご縁でした。以前、芸術を通して遊びながら学ぶ事をコンセプトにした会社に所属し、廃材を使って楽器を作って公演する仕事を行っていました。その経験もあって、対馬で開催されるペットボトルで楽器を作るワークショップにお招きいただき、対馬へ行く機会を得たんです。初めての対馬で、海岸に流れ着く大量の漂着ごみを目の当たりにして、対馬への興味が大きくなり、移住への思いが芽生えました。そして、私の活動を必要としてくれる人が応援してくれたのもあり、対馬へ移住することを決めました。



芸術をとおして、自らのルーツと向き合い、対馬と出会う

Q. 対馬での暮らしについて教えてください

移住してくるまでは、家の情報はもちろん、対馬がどんなところかもはっきりとはわかりませんでした。私は、島暮らしをしたいというよりは、芸術や島外の人との交流を仕事にしようとやってきたので、買い物や町との距離感などを考えて住む場所を決めたいなと思っていました。そこで、対馬市の移住お試し住宅制度を2か月ほど利用させてもらって、市内各地を回ることになりました。そのうち、どこに何があるのかが大体わかり、どこに住むのがいいか納得いくまで考えることができたので、お試し住宅は非常にありがたかったです。

それから1年間、職場に近い巖原に住宅を借りて住んでいたのですが、自分のやりたいことを考えると、より韓国に近い場所に住みたいと思うようになりました。また、1年間の生活の中で、島外への行き来が多く、ふと、このままではいけない、もっと地域の人たちとの関わりを大事にしないといけない、対馬でしかできないことは、島の人たちの暮らしに寄り添うことで何かを生み出すことではないかと感じたんです。そこで、佐須奈地区に拠点を移しました。地域の人たちにご挨拶に行ったとき「よく来たねー！」と歓迎していただいたことは、とてもうれしかったですね。都市部とは違って、親しくしてくれる地域の人たちとのつながりって最高だなんて感じました。現在は、仲間とともに島の外の人たちと島の人たちが交わる場所を作ろうと活動しています。私一人では絶対にできない取り組みですが、色々な人の手を借りて形を作っていきたいと思います。その過程こそが、今の私が思い描いている対馬での暮らしです。



対馬に住みながら生活基盤を固めていった



サツマイモの収穫のお手伝い



地元の人が引っ越しを手伝ってくれました!

Q. 最後に、移住希望者へのアドバイスをお願いします

対馬は、歴史や自然、文化など、ストーリーが豊富にあるので「島で暮らしたい」という人よりも「対馬だから来た!」と目的を持っている人の方が向いていると思います。私の周りにも「対馬大好き!」という移住仲間がたくさんいますよ。でも、何より地域の人たちとの関わりを大切にしていくことが大事ですね。一方通行的な思いの押し付けはよくないですし、自分たちの世界を作るのではなく、地元の方や島外の仲間とのつながりといった多様性をもって暮らしていくこと。私は、これが対馬での暮らしに大切だと思います。



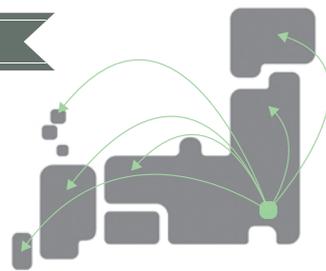
島の仲間との談笑。地域の人とのつながりを大事にして対馬ぐらしを描く

コロナ禍によって、暮らし方への変化が生まれる

新型コロナウイルスが、わたしたちの生活のありとあらゆる場面で影響を及ぼした今年「どこでどのように暮らしていきたいか」という考えにも変化が生まれてきました。

国が毎月公表している人口移動の統計データによると、今年に入り、東京都への転入者よりも転出者が多くなっている月が見られるようになりました。これは、統計の比較が可能な2013年から見ると初めてのことであり、東京から人口が流出していることを示します。

コロナ禍で生活様式が一変し、オンラインでの会議や仕事の実施など、自分が住みたい場所での活動の幅が広がり、東京を中心に考えられていた暮らしの形に変化が生まれ、地方への移住に関心が高まっています。



東京都への転入超過数の推移

2016年7月→ 1,731人

2017年7月→ 1,757人

2018年7月→ 1,667人

2019年7月→ 1,199人

2020年7月→ **-2,522人**

※転入－転出＝転入超過数

対馬への移住は今



対馬市へは、この2・3年UターンやJターンなどで移住する人たちが増えていきます。近年移住した人の約7割が20代から40代と比較的若い世代の人たちで、仕事で対馬に関わって対馬の魅力を見出し移住を決める人や、いったん都会へ出た対馬出身の人が、対馬の魅力を見直し故郷へ帰ることが多くなっています。



アイランダーでの漁業士会によるトークショーで島の漁業をPR

しかし、今年度に入ってから、新型コロナウイルス感染症の影響から、都市部などで対面で行っていた移住相談の中止が相次いだり、移住お試し住宅など、実際に対馬に来てもらい対馬の良さを感じてもらえる機会が少なくなりました。また、地方間での競争も激しく、増える移住希望者に、どうしたら対馬を選んでもらえるかという取り組みも必要になっています。

そこで対馬市では、スマートフォンやパソコン等で移住相談ができる「オンライン移住相談」を開始しました。在宅で対馬市しまぐらし応援室のスタッフに相談することができ、コロナ禍でも多くの移住相談をいただいています。

11月20日から29日までは、全国の離島が島をPRするイベント「アイランダー」がオンラインで行われました。その中では、普段は写真でしか見ることのできない対馬の街中や、山から見える景色をライブ配信で伝えたり、大勢の島の人たちが登場してトークを行ったりと、より島の様子が分かるような取り組みで対馬をアピールして、たくさんの人の興味を引き、対馬への移住に関心をもつ人もいました。

そのほか、進学や就職などでいったん対馬を離れた若い世代のUターンや、島暮らしに興味を持っている若い人たちが、対馬に移住してもらいやすいサポートを行い、移住者の増加に向けて取り組んでいます。



オンラインで対馬の風景を配信

対馬市が行っている移住や定住への支援

しまぐらし支援補助金

【対象者】市外に5年以上居住し、市内へ移住した方で
引き続き5年以上市内へ住み続ける意思のある方

引越経費支援

【対象経費】

市外からの荷物の運搬
にかかる経費

【補助率および補助額】

補助対象経費の3分の
2以内 上限20万円

住宅借上初期費用支援

【対象経費】

民間賃貸物件を借りる
際の初期費用

【補助率および補助額】

補助対象経費の一部
上限5万円

住宅家賃支援

【対象経費】

民間賃貸物件を借りる
際の家賃

【補助額】

家賃月額額の2分の1
上限3万円×3月分

子育て世帯移住支援

【対象経費】

中学生以下の子どもを
扶養している世帯

【補助額】

扶養している子ども
一人あたり2万円

ふるさと就職奨励補助金

【対象者】次の要件を全て満たす方

- ①学校等を卒業して2年以内の方
- ②島内企業に就職後1年以上経過し、引き続き5年以上
市内へ住み続ける意思のある方
- ③申請日時時点で30歳未満の方

【補助金額】10万円

結婚移住奨励補助金

【対象者】次の要件を全て満たす方

- ①夫婦または夫婦のいずれかが市外から移住された方
- ②婚姻届が受理された日から前後1年以内に市内に移
住し、引き続き5年以上市内へ住み続ける意思のある方

【補助金額】一組あたり5万円

奨学金返還支援補助金

【対象経費】高校・大学等における奨学金の返還額

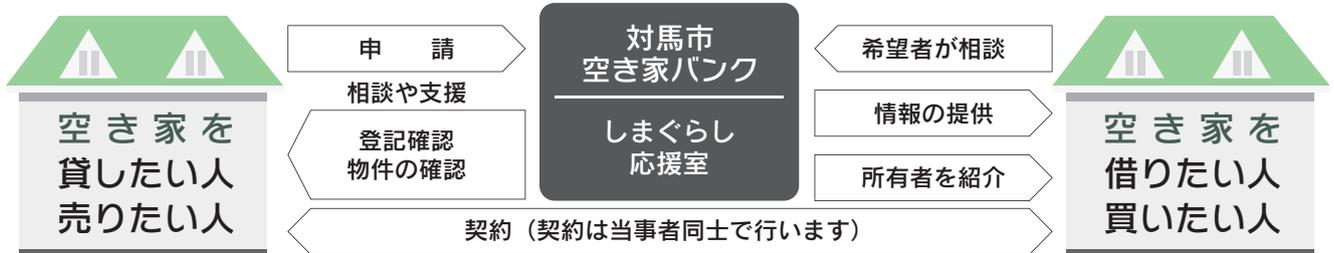
【補助額】 奨学金返還額(年度)

年間上限24万円5年間まで補助

空き家対策と移住支援

※補助金ごとに交付の条件がありますので、詳しくは「しまぐらし応援室」にお問い合わせください。

移住を考えている人にとって、住む場所を見つけることはとても難しく、スムーズに住む場所を見つけることができるかどうか、移住先を決めるきっかけの一つとなっています。そこで、市内に増える空き家の有効活用と移住定住による地域活性化を促す制度が「空き家バンク」です。空き家を、移住者の住宅として貸し出したり売ったりすることで、空き家の減少になることはもちろん、地域の防犯面への貢献や、地域の元気づくりにつながることが考えられます。空き家の改修には補助制度もありますので、ぜひ一度ご相談ください。



6月に島おこし協働隊に着任した私も、空き家を借りて生活しています。大家さんの許可をもらって自分でリフォームしながら住み心地の良い家を目指しています！

移住を希望している人は、島で暮らしたいけれど住む場所がないと、移住を断念してしまう人も多くいらっしゃいます。目的をもって対馬に来たいと思っている人は、人が多い場所や便利な場所ではないところに住みたい人もいますので、全島をまわって、そんな人たちのニーズに合うような空き家を提供するお手伝いができればと思っています。



しまぐらしコーディネーター
川口 智史

※しまぐらしコーディネーター：自らの移住経験等を生かし、移住希望者への相談対応や情報発信等のサポート役を担っている。また、市内の空き家の利活用を目指し、空き家バンク制度の充実にに向けた活動を行う。

コロナ禍によって、都市部から地方への移住の流れがさらに加速しています。移住を考えている人たちが「対馬で暮らしたい！」と思って移住してもらえるよう、対馬市では地域の魅力を発信していくとともに、移住相談窓口や充実した支援制度でみなさんをサポートしていきます。

問い合わせ しまぐらし応援室 ☎0920(53)6111

広報写真で振り返る

2020年



1月

- 令和時代初めての対馬市成人式に新成人246人（男125人、女121人）が出席 ①
- 須川琥太郎くん（仁田中2年）が、ソフトテニス長崎県選抜チームに選出 ②
- 対馬市老人クラブ連合会豊玉支部が、全国老人クラブ連合会会長表彰（活動賞）と長崎県老人クラブ連合会会長表彰を受賞 ③

2月

- 認知症高齢者声かけ訓練が上対馬総合運動公園体育館で行われ、声かけ方法を実演
- 対馬市のイノシシ・シカの被害に対する取り組みが「令和元年度鳥獣対策優良活動表彰農林振興局長賞」を受賞 ④

3月

- ありがとうみんなの母校！ 浅海中学校で閉校式 ⑤
- 各種統計調査員として尽力されてきた山城松子さんが経済産業大臣表彰を、三山登志郎さんが農林水産大臣表彰を受賞 ⑥
- 戦没者遺族・戦傷病者等の援護事業に貢献された功労者に贈られる援護事業功労者厚生労働大臣表彰を対馬市連合遺族会（藤田俊彦会長）が受賞 ⑦

4月

- 世界的な広がりを見せる新型コロナウイルス感染症対策として各団体がマスクなどを対馬市に寄贈。広がる支援の輪
- 本年度末で閉校する小綱小学校に1人だけの新入生、阿比留光志くんが入学

5月

- 緊急事態宣言解除。対馬市でも各種税金・保険料等の徴収猶予および減免制度などの支援策を実施
- 曲の盆踊りを復活させるなど、その中心として尽力された梅野林壽さんが教育委員会表彰（文化功労）を受賞

6月

- 市民や観光客に愛された丸いたいやきを製造販売していた峰町の永留菓子店が惜しまれながら閉店 ⑧
- 対馬法人会青年部会（播磨孝記副部会長）が厳原小学校の6年生を対象に租税教室を開催 ⑨

取材では、皆様のご協力をいただきありがとうございました。



臨港道路厳原久田線の歩道が損壊

美津島グリーンパーク屋外ステージの屋根が損傷



- 7月**
- 厳原町女性団体が観光客や帰省者に快適に過ごしてもらうため、厳原港周辺を清掃 **10**
 - 料理研究グループ「対馬の郷土料理を学ぶ会」（山川房子代表）が「対馬の郷土料理」を出版 **11**
- 8月**
- 元寇で戦死した「宗助国公騎馬像」の除幕式を小茂田浜神社で開催 **12**
 - 第42回「少年の主張長崎県大会」が開催され、対馬市代表の安楽智輝さん（佐須奈中2年）が優秀賞（NHK賞）を受賞 **13**
 - 令和3年度の開通を目指して、主要地方道厳原豆酸美津島線道路改良工事（仮称尾浦トンネル）の安全祈願祭を挙
- 9月**
- 教養や専門性を高める機会を市民、対馬出身者、対馬ファン等に提供する「対馬グローバル大学」が開校 **14**
 - 台風第9号、第10号が立て続けに襲来し、各地に大きな被害をもたらす。第9号では、厳原で最大瞬間風速46.2mを記録。第10号では、上対馬町鰐浦で観測史上最大となる最大瞬間風速48.9mを記録 **15**
- 10月**
- 小綱小学校で最後の運動会。「つなっ子ソーラン2020」では、児童の力強い踊りに地域住民が感動 **16**
 - 対馬市消防本部や陸上自衛隊対馬警備隊など関係15団体・約100人が参加し、航空機の突発的な事故に備え、航空機事故消火救難総合訓練が対馬空港で実施 **17**
 - 対馬市中学校体育大会駅伝競争大会で難知中学校が2年連続の男女W優勝。男子は2連覇、女子は8連覇の快挙 **18**
- 11月**
- 第39回全国高等学校弓道選抜大会長崎県予選で、対馬高校の石田剛希さんが男子個人の部で優勝、女子個人の部で栗屋優子さんが2位に輝き、対馬高校は男子団体の部で2位、女子団体の部で3位の快挙（次ページに掲載）

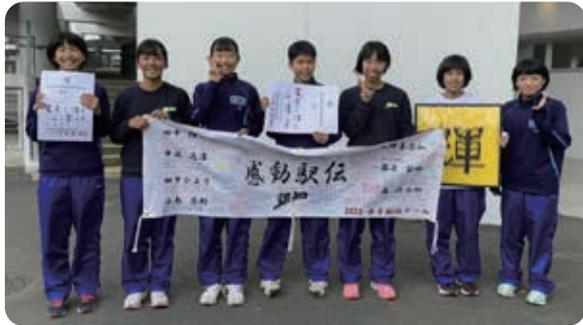
2021年もよろしくお願ひします。

たすき 襷でつなぐチームの絆

11月5日、諫早市で長崎県中学校総合体育大会 駅伝競走大会が開催されました。市内の大会で1位と2位になった男女各2チーム（男子：雞知中・厳原中、女子：雞知中、大船越中）が出場し、雞知中（女子）が3位入賞を果たしました。

結果は以下のとおりです。（敬称略）

【女子の部(5区間12km)】3位 雞知中43分07秒
【区間賞】3区(2.0km)田中ひより(雞知中)7分01秒



対馬高校生が優勝の快挙！

11月15日、第39回全国高等学校弓道選抜大会 長崎県予選が佐世保市で行われ、男子個人の部で対馬高校の石田剛希さんが優勝、女子個人の部で栗屋優子さんが2位に輝きました。また、対馬高校は、男子団体の部で2位、女子団体の部で3位の好成績を取っています。



たすき チームの思いを襷に込めて

11月23日、峰町（峰総合運動公園陸上競技場～西小学校方面折り返しコース）で第30回対馬小学生駅伝大会が行われました。男女混合の6区間9kmで健脚を競い、LTC対馬Aチーム（美津島）が優勝の栄冠に輝きました。主な結果は以下のとおりです。（敬称略）

1位 LTC対馬A 31分36秒（新）
2位 久田A 32分41秒
3位 鶏鳴A 33分41秒

区間賞(各1.5km)

1区 山本果朋（6年）佐須奈 5分22秒
2区 惣島 遼（5年）久田A 4分58秒
3区 藤 らら（5年）LTC対馬A 5分24秒
4区 俵 匠生（6年）LTC対馬A 4分53秒（新）
5区 畑島 百（5年）LTC対馬A 5分27秒
6区 庄司旬汰（6年）久田A 4分57秒（タイ）

